

2021年6月期はコロナ禍でも増収増益、過去最高益を実現

2021年6月期については、年度内でもお取引先の状況や外部環境も大きく変化しましたが、コロナ禍においてもさまざまな取り組みにより安定的なビジネスを推進でき、結果として増収増益を達成することができました。

当社グループにおいては、新型コロナウイルスによるビジネスへの影響が前年度2020年2、3月頃から出始めました。案件の延期や中止が発生し、従業員の在宅勤務シフトやそれらに対応するシステム構築や事業の運営変更などの対応に追われ、2021年6月期第1四半期(7~9月)は、前年同期比で減収減益と非常に厳しいスタートとなりました。しかしながら、第2四半期会計期間(10~12月)以降、定性調査のオンライン化など業務の見直しや在宅勤務のための基盤整備や運用が確立され、またコロナ禍が続く中でもお客様のマーケティング活動の回復は底堅く推移したこともあり、当社グループの業績は急回復いたしました。第2四半期会計期間および第3四半期会計期間はいずれも過年度同期間対比としては過去最高の売上高・営業利益を計

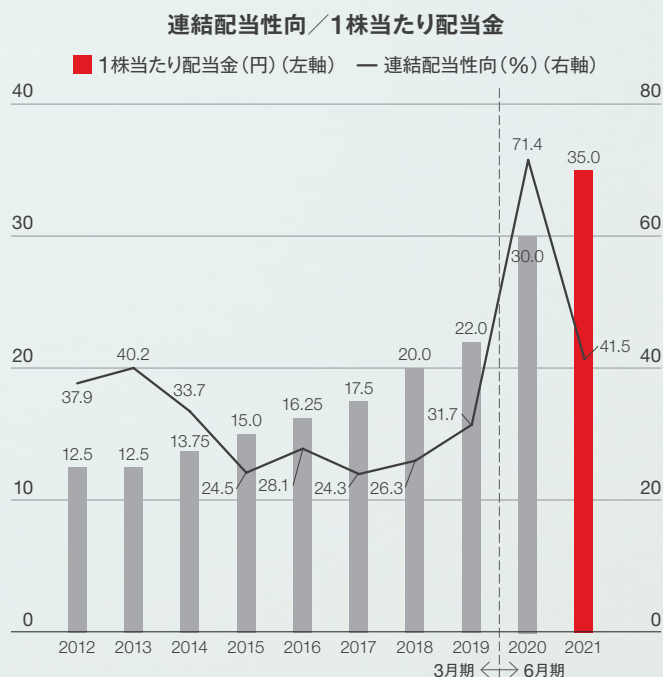
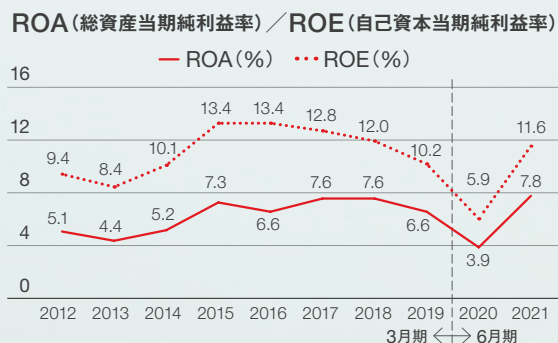
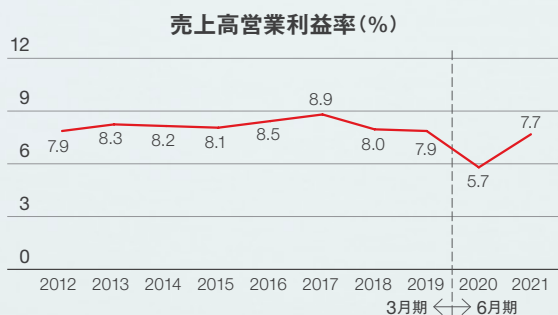
上することができ、通期でも第1四半期の減収減益を補って、15カ月決算となった2020年6月期を除けば、過去最高の売上高・各段階利益を計上することができました。

利益分配に関する基本方針の変更： 財務面のKPIを追加、自社株買いの実施も決定

株主の皆さまに対する利益還元は、経営上の最重要課題の一つとして位置付けていますが、近年の連結業績の推移や財務体質の改善を勘案し、株主の皆さまへの利益還元を一段と強化すべく、利益分配に関する基本方針を一部変更することにいたしました。具体的には、配当性向目標を従来の35%から40%に変更するとともに、長期的なバランスシートマネジメントの見地から、連結純資産に対する配当の比率を示すDOE(自己資本配当率)を新たにKPIとして採択することとし、目標を4.5%以上といたしました。DOE(DOE=ROE×配当性向)をKPIに追加することは、自ずとROEを高めていくことにもつながることだと考えています。2021年6月期の配当については昨年の30円(12カ月換算では24円)から35円への増配(配当性向41.5%、



強固な財務基盤をベースに 株主還元と成長投資を着実に実行し 企業価値向上を図る



(注) 2020年6月期は3月末から6月末に決算期変更を行ったことから、2019年4月1日から2020年6月30日の15カ月間となっております。そのため、表中は当該影響を加味した数値を記載しております。

DOE4.8%)を実施いたしました。

また、基本方針においては、自己株式の取得についても、機動的に対応し資本効率の向上を図ることとしております。2021年8月には、決算発表と同時に100万株・12億円(いずれも上限値)の自社株買いを決定・実施しております。

投資家とのエンゲージメントを重視し、 経営と財務の戦略理解を促す

当社は安定的かつ強固な財務基盤を構築するよう努めてきた結果、2021年6月期においては自己資本比率が66.0%、連結純資産額は302億円となっております。

足元のビジネス環境は前述のとおり順調に伸長しておりますが、「中長期的」な企業価値創造の重要な指標であるROE向上のため、新型コロナウイルス発生による生活者とお客様の大きな変化を今後の更なる事業拡大につなげる必要があります。この事業拡大のための資本政策のあり方について検討を深め、2022年6月期は積極的な成長投資の実行に舵を切りました。これにより、第13次中期経営計画を一部修正し、2022年6月期は増収減益の計画としています。

今後の資本政策としては、現状の強固な財務基盤をベースにしつつ、資本効率を重視し、最終利益を中長期的な成長に向けての投資と株主還元へ振り向けていく考えです。中長期的な成長という視点において更なる利益の創出に努めていくとともに、バランスシートマネジメントを行っていくことにより、ROE12%程度の実現を目標にしていまいります。

また、これらの当社の中長期的な成長戦略については、投資家との対話の中でしっかりと訴求していきたいと考えています。投資家とのエンゲージメントは、機関投資家・アナリスト向けの決算説明会や機関投資家へのIRミーティングを中心に積極的かつ継続的に実施しています。対話を通じていただく当社の成長戦略・事業戦略・ESGなどに対する質疑や意見表明は、当社の経営方針を検討していく中でヒントとなる場合もあり、建設的かつ重要な機会と位置付けております。

引き続き、株主・投資家におかれましては、重要なステークホルダーとして、経営環境の変化に立ち向かう当社をご支援いただきたいと思います。

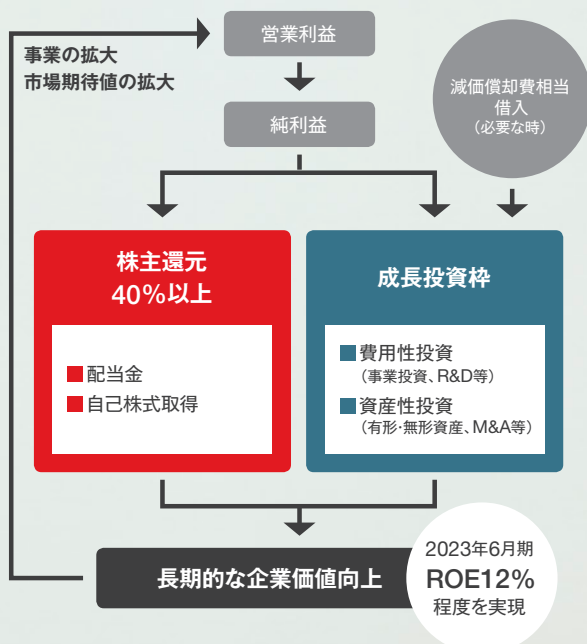
2022年6月期の業績予想

(百万円)

	21/6期実績	22/6期予想	前年差	対前期比
売上高	57,558	60,500	+2,941	+5.1%
営業利益	4,421	3,400	△1,021	△23.1%
経常利益	5,081	4,000	△1,081	△21.3%
親会社株主利益	3,372	2,800	△572	△17.0%

資本政策について

前提条件 健全なBS:自己資本比率60%台以上の維持



取締役 CFO 内部統制担当
池谷 憲司

